

平成21年12月9日
午前10時10分受領

平成21年12月9日

福島町議会議長 溝部幸基様

福島町議会議員 1番 佐藤卓也 ㊟

一般質問通告書

福島町議会定例会12月会議において、次の件について質問したいので、会議条例第60条第2項の規定により通告します。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
少子化への具体策は	<p>福島町の人口が毎年150人程度減っています。平成20年の出生は12人、同じく本年1月から11月末は20人です。2035年には推定人口2322人、減少率全国9位という厳しい予測があります。</p> <p>結婚や出産は個人の決定に基づくものと断りつつも、あえて国は少子化の進展に歯止めをかけることを目的として平成15年に「少子化社会対策基本法」を制定しました。町では「福島町次世代育成支援行動計画」が策定され来年度から後期5ヶ年計画が始まります。このような人口減少の中、子育て支援サービスに問題点はないのでしょうか。また、総合開発計画で少子化対策を具体的に検討されたのでしょうか。幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校の児童・生徒数が減少する中、何らかの歯止めをかける、あるいは従来の枠組みを大きく変えていく何らかの対策を講じなければこの町は消滅してしまうと危惧しますがいかがでしょうか。</p>	町長

注) 1 質問の要旨は、簡潔明瞭に記載すること。なお、記載外については、質問できません。

2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>当町の環境政策は</p>	<p>環境に優しい「循環型社会のまち」を目指している町が増えてきています。まずは、ごみ減量・リサイクル率の向上、最近では太陽光発電、風力発電、バイオマス発電などの自然エネルギーに追い風が吹いています。</p> <p>鳩山首相は「2020年に温室効果ガスを1990年比25%削減する」と国際公約をしました。真水を15%として、残り6%を海外からの排出枠購入、4%を国内の森林吸収効果で補うというのが現実的という話です。</p> <p>さて、福島町は森林面積が約93%を占めています。近い将来企業にCO₂削減義務が課されれば、温暖化対策をしている町が生き残っていける要素があると思います。一例ですが、京都府亀岡市では生ごみや食べ残しを焼却処分しないで炭素の塊である炭にして地中に埋める炭素埋設法の実験を進めております。さらにそこでできた野菜を「クールベジタブル」として付加価値をつけて売ろうとしています。</p> <p>当町も低炭素社会に向けた対策を採ることによって過疎である町を活性化させるべきと考えます。まずは、CO₂の排出量が計算できる「環境家計簿」を作成し町民に配布したらと考えますが、今のところ町長はどういった計画をお持ちなのかお伺いいたします。</p>	<p>町長</p>